

サマーレビュー協議事項調書

1 部局名 (課名)	産業部観光・ブランド振興担当 (観光・シティプロモーション課)	
2 協議事項 (案件名)	海外の高付加価値旅行者を対象とした受入環境の整備に向けて	
3 背景・現状 (現状把握できる統計数値など)	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナと円安の影響で国内のインバウンド需要が急増 ・客単価が高く、長期滞在傾向にある欧米豪の来日傾向が強い ・観光庁では、訪日旅行1回あたりの総消費額1人100万円以上の旅行者を「高付加価値旅行者」と定義 <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内において、既存ホテルが富裕層向けにリブランディングを図る動きが加速(グランドメルキュール、マリオット等) ・本地域の1人1回あたりの観光消費額は、他の地域に比較して安価であり富裕層向け体験商品が不足している(全観光圏平均39,031円、本地域21,395円) 	
4 検討経過・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年東京オリパラに向けて、国事業でインバウンド向け滞在型旅行商品の造成を実施したが、コロナにより中断 ・令和2年度、市内の宿泊・体験商品を紹介する多言語HP”Through Hamamatsu, meet Japan“(8言語)を整備 ・(公財)浜松・浜名湖ツーリズムビューローで、静岡県「令和6年度インバウンド県内周遊コースの商品化・販売促進事業」を活用し、1泊2日100万円以上の2コースの商品開発中 	
5-1 方向性の提案 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・海外からの高付加価値旅行者の受け皿となる旅行商品の開発・販売を通じて、地域の観光消費額増加を図る。 	
5-2 上記の方向性決定に向け議論する事項 (妥当性、必要性、有効性など)	<p>高付加価値旅行者の受入環境を整備するため、以下の事業を実施することの妥当性</p> <p><想定予算額> 15,000千円</p> <p><u>令和6年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド受入機運の醸成(セミナー、先進事例の紹介) ・専門家による地域の観光資源の再整理と商品選定 <p><u>令和7年度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の磨上げ、モニターツアー、ガイド養成 ・販売ルートの整備、エージェントセールス 	
6 結果	<input type="checkbox"/> 提案どおり進める <input checked="" type="checkbox"/> 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/> 再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/> その他	<p>具体的内容</p> <p>市内のインバウンドに関する基礎データ等を再整理し、正しくターゲットを絞った上で事業に着手すること。</p>
7 その他		